

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 956 号	氏名	森内 剛史
学位審査委員	主査 佐藤 克也	副査 沖田 実	副査 折口 智樹
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価</p> <p>Mirror Neuron System (MNS) は、他者の動作を運動観察した際に、その動作に対応した自分自身の脳領域が活性化されるシステムであり、MNS の活性化が観察した動作と関連のある運動表現を再活性化する。本研究では提示する映像の再生速度が運動観察中の大脳皮質運動野 (M1) の活性化にどのような影響を与えるかを検討しており、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>神経生理学的疾患の既往のない健常成人に、再生速度の異なる条件で素早い動作の課題とゆっくりとした動作の課題の運動観察を行い、その際の運動誘発電位 (Motor Evoked Potential, MEP) 振幅を安静時と比較・検討を行っている。また、結果については、種々の統計学的手法で解析されており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、素早い動作の課題では再生速度を遅くすることで運動観察中の MEP は筋特異的に増大するが、ゆっくりとした動作課題では運動観察中の MEP は再生速度の影響を受けないことが明らかとなった。以上の結果より、MNS を活性化させると M1 の興奮性変化を見出すことができた。</p> <p>以上のように本論文はリハビリテーション研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			